

取組の目標について

国土交通省 航空局
令和8年8月



新たな目標設定について(案)

制限区域内における自動運転実装の実現は、2025.12までの導入という目標設定により、関係者が連携して取り組むことができた先進的事例であり、今後、各空港で取りまとめる行動計画に基づく実装を実現するために、新たな目標を設定する。

目標設定の考え方

搬送業務における生産性の向上（人員数、所要工数など）

そのために

自動運転車両の実装拡大（空港数、車両台数、車種、走行エリアなど）

そのために

実装課題（技術・ルール）の解決

技術検討
委員会
目標案

1

SL等走行の実現

- 空港内制限区域内における自動運転車両の実装拡大や導入台数の増加を推進するため、2030年までに自動運転車両と航空機と交差する経路（サービスレーン等）の走行を実現する

2

自動運転バスの実装

- 2030年までに空港制限区域内における自動運転バスの実装を可能とする

ロードマップのイメージ

自動運転トーイングトラクターの航空機と交差する経路の走行及び自動運転バスの実装は、安全確保を大前提に、技術面・運用面の課題検討及びインフラ・車両整備等に必要な期間を考慮し、2030年までの実現※を目指す



※各活動の所要期間は今後検討を通じて具体化されるため、短縮可能な場合は目標前倒しも検討